



文芸

Japanese Poem of 31 syllables
*Haiku Poem*Comical Haiku*

短歌 (はなさい短歌会)

雛壇に暁の光は忍び寄り官女の舞の袖ひるがえす
春先の寒の強さを良しとしてヤマネ絞りは大きく咲いて
二枚貝の絵てがみなそば湿りいて北の無念を伝う冷えあり
春雨に紅梅散りて一面にピンクの絨毯飽かず眺める
夕べ一つ大風吹いて冬が去り明けて花咲き鳥鳴くうらら
水仙に負けじと梅の咲きほこり稚児に優れる天津乙女を
手作りの自慢の品を持ち寄って今日も賑わう高齢者サロン
春雨にけふる港に外国船共に栄えと告げる船唄
修行終え真鶴帰る春午前シベリア湿原餌なしで待つ
過ぎこしの七十余年は黙しつづつ褪せた雛の残すくれない

南 史郎
渡辺クミ子
日高 禎子
江蔵 成子
内山 幸夫
篠田 紀子
有馬ケイ子
東郷ミイ子
中園 茂甚
西 恭子

川柳 (志布志川柳会)

飽きもせず 日本力士の 台頭論
目が冴えて 淋しい夜の 一人酒
錆びた脳 五七五句作 活性化
難病に 希望の薬 明日が見え
つらくても 希望を糧に 生(い)き老い
ささやかな 希望に生きる 老いの趣味
一目ボレ 希望かなって 若返り

末永 一雄
赤池 忠重
高田 秀雄
上東マキエ
江藤 房子
高田 昭秋
内山 幸夫

短歌 (南船志布志短歌会)

除夜の鐘「忍びて悔いなし」と高倉健は永遠の旅にでた
空と海一体となり暮れなすむ冬の夕陽に吾も溶けゆく
鳴き声も流れる如し群鳥を朝の窓より眼に追ひをり
子や孫の帰省は無くもすこやかなあの子この子の声これ丈でよい
スロースロー窓を明けるも一仕事入り来る風にありがとサンキュー
歌を詠む気持ちにさせる歌の在り詠みてしばらく鉛筆を持つ
広き庭草はしげれど空気がよき田舎は心をなごませくるる
健康がとりえの自負どこえやら唐突の目眩に心しほめり
屠蘇を汲む席に受験生一人欠け気掛り孫に柏手重ぬ
久しに復活したる運動会孫曾孫との新たな集い
家々は未ださめやらずさええと半月のみが冷たく光る

暉峻 康瑞
池ノ上一枝
川井登志子
林 静子
平川 澄子
益倉 睦美
松下 芙美
宮原 順子
山田 和子
山元ハツミ
若松田鶴子

～ 『志』・季・折・々 ～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：安楽神社の春祭り・田打ち】